

優秀賞

# はじめて見た雪のけっしょうり

福島県 会津坂下町立坂下東小学校二年 畑中 俐人

どうして冬になると雪がふるのかな？とぼくはきもんに思ったので、雪についていろいろしらべてみることにしました。

十二月から、毎朝学校に行く前に、外の気おんとしつどを記ろくしました。雪がふった日は、虫めがねや大きさはかれるルーペという道ぐで、雪の形をかんさつしました。手ぶくろをしていると、カメラのボタンをうまくおせないで、手が赤くなるけど、さむいのをがまんしてかんさつしました。

六角形の雪のけっしょうを生まれてはじめて見た時、ぼくは

「うわぁー!!すごーい!!」

と言いました。キラキラしていて、とてもきれいだっただけです。ずーっと見ていたかったけど、すぐにとけてしまうので、またちがう雪をさがしました。ある日、一どにいろんな形のたくさんのかんさつしょう

がふってきたので、うれしくてうれしくて、しゃしんを何まいも何まいもカシャカシャとりました。きれいでかっこいいけっしょうだったので、むねがとでもワクワクしました。こんな日が毎日やってくると、ぼくの一日が楽しくはじまるのになあと思いました。けっしょうをたくさん見れるようになってきたので、毎朝のかんさつがどんどん楽しくなってきました。

雪がふっても、けっしょうを見ることができない日もありました。ぼくは、十二月から三月までで、三十八回見ることができました。

ぼくがしらべた本には、雪は三十五しゆるいあると書いてありました。形には名前があつてぼくが見られた形の中でのお気に入りは「十二し」です。十二しは、六角形のけっしょうがうまく二つかさなっている形です。しらべてみておどろいたことは、

「上の方の空に一年中雲ができていて、夏でも雪のつぶができています。地めんにおちてくるまであたたかい夏は、とけてしまつて雨になつてしまふ」ということです。夏もさむかつたら雪がふつてくるかもしれないんだ！とおどろきました。

ぼくはふしぎなものをみつめました。コンクリートに雪のけっしょうににいて、とても大きな文字に見えるものを何回も見ました。これは、ぼくへの「さむいけどがんばつてね。たくさんけっしょうが見れるといいね」って、空からのおうえんメッセージかな？ そうだったら、かんさつがもっと楽しくなつてうれしいなあと思ひました。

外はさむかつたけど、けっしょうが見られたので毎朝かんさつをつづけて本当によかつたと思ひました。わからないことをいろいろしらべて、わかるようになった時は、はかせになれた気分がうれしかったです。

ぼくのゆめは、雪のけっしょうを三十五しゆるいぜんぶ見つけることです。今どは、けんびきょうで見たいです。また、冬のきせつがくるのがとても楽しみです。早く冬になつて雪がふらないかなあーと考へています。

